

5学年国語ブロック(5年国語科)

単元名 おすすめします！魅力的な宮沢賢治の物語

学習材名 「雪わたり」「イーハトーヴの夢」

(目指す児童像) **優れた叙述をもとに考え、話し合うことができる子**

つきたい力

(領域) C「読むこと」目標

(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる

- ① 優れた情景描写を読んで自分の考えをまとめる力 (ア、エ)
- ② 登場人物の相互関係や心情の変化を読む自分の考えをまとめる力 (エ、オ)
- ③ 同一作者の本で意図や表現を比べ読みする力 (ク)

<学習内容の確実な定着を図る
指導の工夫・改善>

- ① 優れた叙述に着目する手立て
 - ① 作者に関する評伝を読む
 - ② 課題及び発問の工夫
 - ③ 相互評価の工夫
- ② 主体的な言語活動のための手立て
 - ① ワークシートの工夫
 - ② 読み比べの設定・豊かな読書活動
 - ③ 読書交流会の設定
 - ④ 新聞の作成

<学習意欲を高める
指導の工夫・改善>

- ③ 教師によるそのつど評価の工夫
 - ① 相手の考えと自分の考えを比べながら話し合っている児童の称賛
 - ② ワークシート評価の明確化
 - ③ 計画的なグループ学習・全体学習への支援
- ④ 課題意識・目的意識の獲得
 - ① 宮沢賢治コーナーの設置
 - ② 単元のゴールの明確化
 - ③ 学習計画表の作成

単元の目標

- 宮沢賢治の作品に興味をもち、進んで読んだり、作品の叙述を味わいながら読み深めたりしようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の相互関係や、心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述や作品の魅力について自分の考えをまとめることができる。(読むこと)
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで、比べて読むことができる。(読むこと)
- 比喩や反復などの叙述描写や文脈に応じた語句を理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

【本時の授業の実践と考察】

本時 (10/15時)

(☆ 他教科・他学年との関係 ※ 考察)

- 1 本時の課題をつかみ、学習の進め方を確認する。手だて④-②

「雪わたり読書交流会」をしよう

- 2 ワークシートに書いた自分の考えを見直す。(一人学び) 手だて①-②、②-①・②、手立て③-②

<魅力を考える視点>

- ・ あらすじ (おすすめの場面)
- ・ 登場人物の魅力
- ・ 賢治の言葉
- ・ 作者の生き方や考え
- ・ 作品のメッセージ

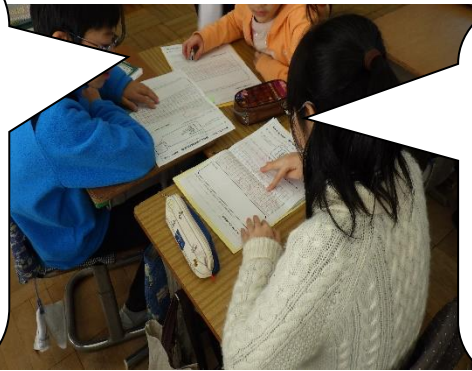


※前時までの話し合いで練り上げた賢治作品の魅力 키워ドとして掲示することで、多様な視点から物語の魅力を考え、表現する手掛かりにすることができた。

3 自分が考えた「雪わたり」のおもしろさについてグループで話し合う。(グループ学習)

手だて 1-③、3-③

C1: 私は、賢治独特の表現や音の工夫が面白さだと思います。「キックキックトントン」という楽しい気分にさせてくれる歌や、「ザラメをかけたような」という様子を表す上手な言葉が物語に引き込ませてくれると思ったからです。



C2: 私は、C1さんと似ているんですが、歌を歌っているような表現や、あまり聞いたことのない表現を使って場面の楽しさや美しさを読者に伝えようとする賢治の表現が、この物語のおもしろさではないかと思いました。

4 全体交流会をする。

C: 賢治の言葉は独特で、自然の美しさが伝わってきておもしろい。

C: 私も一緒に独特な賢治の言葉が美しくていいと思った。

C: 私は音やリズムのある表現がよかった。読み手も楽しくなる。

C: 私は少し違って、みんな仲良くしてほしいという、賢治のやさしさや思いが伝わる話がいいなと思った。



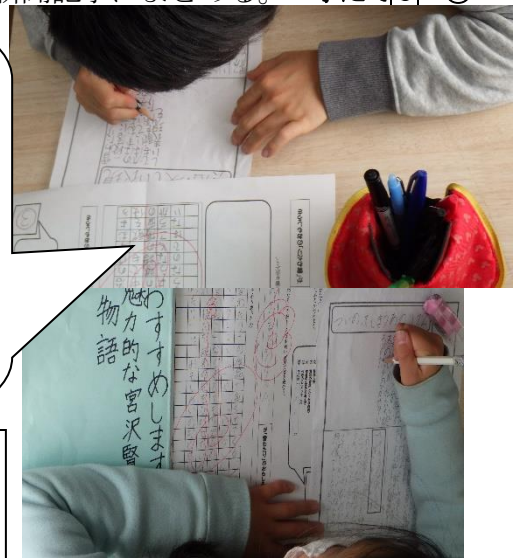
※自分の面白さを短い言葉で短冊に書き表し、児童自身に分類させながら板書をつくりあげる過程を経ることで、よりじっくりと共通点や相違点を考え、お互いの考えを比べ合いながら活発な話し合いをすることができた。

5 話し合いを通して考えた「雪わたり」のおもしろさを新聞記事にまとめる。手だて 5-②

C: 「雪わたり」には賢治独特の音や表現の工夫があるのがいい。また、賢治の明るく優しい心が作品をより楽しくしていると思う。

C: 「キックキックトントン」などのテンポの良い表現が、読むだけで楽しい気分にしてくれるのがおもしろいと思った。物語の世界に引き込まれる。

C: 人間と仲良くする動物や優しい兄弟の存在など、賢治が自然や人とのつながりを大切にしていることがよく伝わってきていいなと思った。



※単元を通して、「作品のおもしろさはどんなところか」を常に意識させて話し合いを続けてきたので、表現と作者の生き方や、話の展開と表現の効果など、複数の視点をからめて物語のおもしろさについて考えながらまとめることができた。

6 本時の学習感想を書き、次時への見通しをもつ。手だて 2-④

【指導講評】さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事 米玉利 優子 先生

- つけたい力を明確にして単元計画が組まれており、本時の流れも板書するなどとても丁寧な授業だった。
- 自分の考えをまとめてから交流できるようにしたり、字数を制限することで言葉を精選できるようにしたりと、ワークシートがよく工夫されていた。
- 本時のめあては、子どもがはっきりと課題を理解できるわかりやすい言葉を用いるとよい。
- グループ学習では、ワークシートを読む発表ではなく、短冊を見せながら考えを話し合わせるとよい。
- 振り返りは、みんなで共有するものであるから、みんなに向けて話すという姿勢をもたせるとよい。